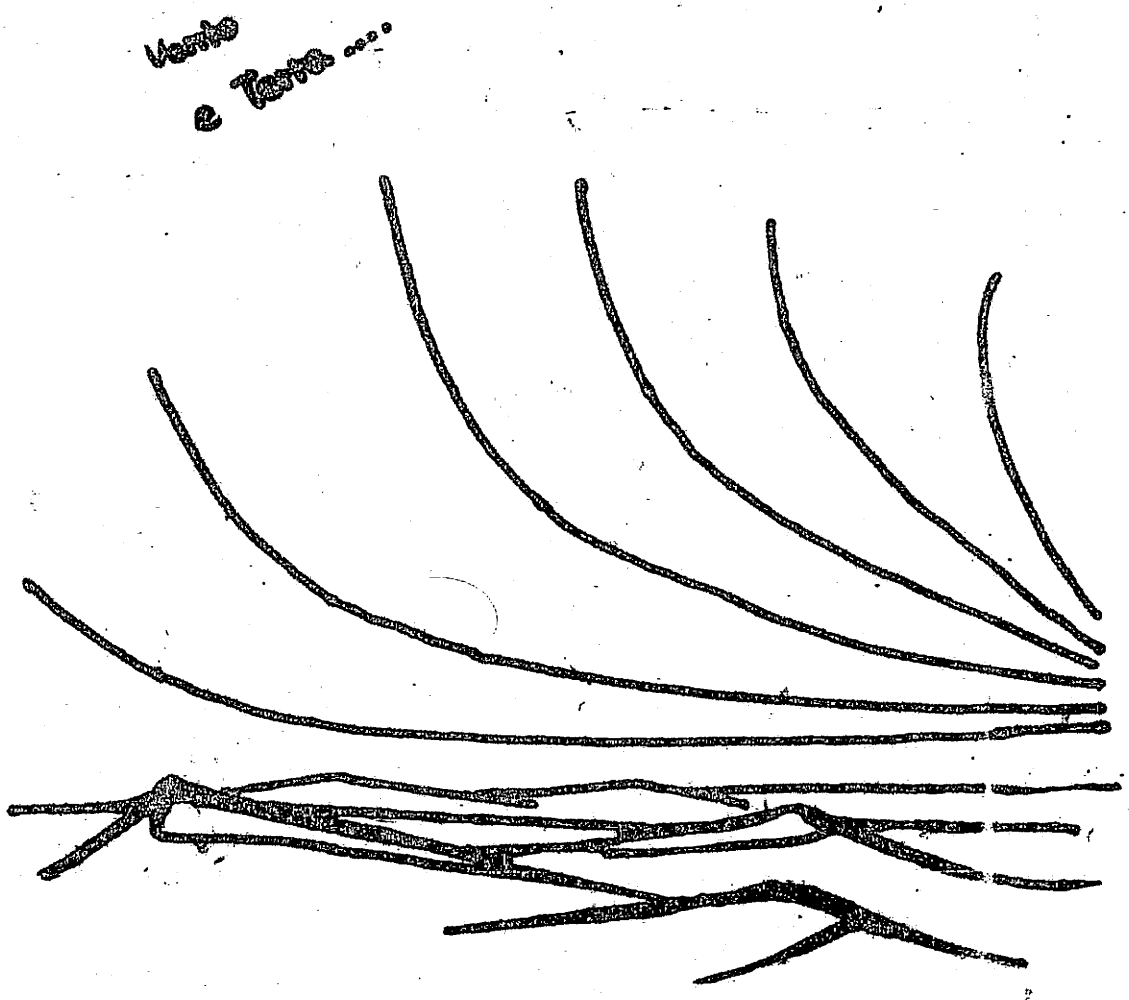
新人合宿報告書
1990



信州大学山岳会

リーダーの言葉

去年は２日目にして自力で立てなくなり、３日目ひはリヤカーで上高地へ向かうという情けない新人合宿を俺は味わった。とりあえず今年は誰も事故らずに良かったと言っておこう。

１年生は体力と精神の極限をこの合宿で垣間見たことと思う。どんな事でも始めは不慣れで辛いものだが、君らの山へ登りたいという初心を忘れないで是非とも頑張ってくれ。今はまだやる気だけを持っていてくれたら充分だ。君らにやる気があれば僕らはその気持ちに応えることを約束しよう。また進歩の一番の妨げは甘える気持ちであることも肝に命じておくように。

２年生は上級生としてよく頑張っていた。しかしこれからは頑張りに確実な実力をつけていくよう心掛けてくれ。

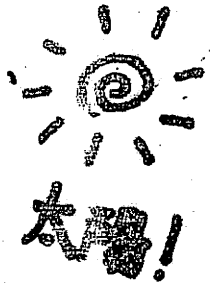
３年生以上は出たり入ったりでご苦労であったがクラブにおいての合宿の持つ意味を各自で考えるように。

さあギラギラと燃える太陽の季節はすぐそこだ。

潤山

目　次

P.1　リーダーの言葉
P.2　山行報告
P.10　係の反省
P.13　個人の反省
P.17　作文
P.20　編集後記



山行報告

5月27日(日)

Aパーティー L浦山 牧野 河西 植垣
橋口 藤江 樹 樹 畠山

0605 ○ 砂防ダム発

0650 ○ 二俣 着
0705 発

1000 ① 岩魚留小屋 着

1450 ① 徳本峠
1520

1700 ◎ 白沢出合T.S.着

峠直前で初めてピッケルを使う。積雪は昨年よりずっと少ない。峠からの下りで体生をもっと見てやればよかった。フジエ

5月27日(日) 記入. 伴野

Bパーティー L松下 小久保 兼岩 長谷川 加藤
田尻 笹森 伴野

6:00 ○ 砂防ダム発

6:45 ○ 二俣 着
7:00 発

10:15 ① 岩魚留小屋 着

14:45 ① 徳本峠
15:20

17:00 ◎ 白沢出合 T.S. 着

徳本峠で体力をつかいはたしてしまいその後ずっとしんどかった。
峠で見た山はすばらしかった。

5月28日(月)　　記入 福手

・ L 浦山 SL 松下 小久保 河西 藤岩 田尻 橋口 藤江 福山
宮森 伊野 福手

3.30 エッセン起床

4.25 起床 食事

5.55 ○ 白沢出合下から出発

7.00 ○ 個人風呂

1.25 出発

7:50 ① 長塀沢口にて山の説明

8:50 出発

9:45 ① 横尾B.C着

平地の行程なので楽だと思っていたら、昨日の疲れや、靴ずれ、荷物の重さでかなりえらかった。途中で後高年の説明があった。

5月28日(月)　　記入 田尻

雪訓隊　L 浦山　SL 小久保　藤岩　河西　橋口　藤江　田尻

11:00 ○ 横尾B.C発 ～ 11:30 ○ ロルンゼ氷河(おれも)地点着 ～
11:30 ～ 13:00まで雪訓 ～ 13:30 ◎ 横尾B.C着

雪質はかき氷状で、(足はもぐらない) 落石のおそれがあるので常に上を警戒しながら行った。クリセード、本登すべり、ピッケルストップ、キックステップの雪訓を行った。天気は最初は晴れていたが終わりの方で曇ってきた。また明日より2泊3日の高所順応の場所なので色々な点を教わった。

3.

5月29日(火) 晴 福山

L. 浦山 SL 松戸 河西 蓼倉 橋口 藤江 日尻
福井 鈴森 伴野 鍋方 福山

2:30 エンセン起床
4:20 ○ B.C出発
6:00 ① 湯沢着
6:45 雪訓開始
9:45 雪訓終了
12:15 ◎ 3・4のコル着
17:00 下山
15:40 ◎ B.C到着

アタックザックなので楽かと思ったら 雪訓も 雪の斜面の登りなどはとてもきつく、大変だった。湯沢からの北尾根からの山の眺めはすばらしかった。明日も大変な事を思うと気が重くなる。

5月30日(水)　記入　笹森

L 浦山　SL 松下　河西　葉岩　橋口　藤江　田尾
福井　笹森　伊野　福山

2:30　エッセン起床
4:00 BC出発
6:000 涸沢着
　　氷を登りながら
　　途中雪渓
9:00　白出のコル着
9:30　涸沢岳登頂
10:00　白出のコル着
　　涸沢までおりて雪渓
14:05　B.C 着

涸沢までの登りでかなりバテテしまった。
コルへの登りも途中から足が上がらなくなり苦しかった
でも涸沢岳から見た風景はすばらしかった。
ワッペルが最後ひどくなり歩くたびにズキズキして
非常に苦しい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

6月1日(金) 興梠隊 [illegible]

1. 峰山 滝西 [illegible]

0410 ◎ BC発 〜 0600 滑沢 [illegible] ◎ 〜 偵察

[illegible] 0850 ◎ 〜 0900 興梠 0940 ◎ 〜 1000 [illegible] 1015 ◎ 〜

1030 滑沢 1045 ◎ 〜 1145 BC ◎

[illegible]

6月2日(土)　本隊　　記入 緒方

L 浦山 松下 牧野 栗岩 長谷川
　 植垣 加藤 河西 藤江 橋口 田尻
　 内田 福山 福手 世森 作野 緒方

2:00　エッセン起床
　　雨の為 待期
9:20 ● B.C. 出発
10:40 ● 一の候看
11:30 ◎ 棚沢看
12:00 ◎ 棚沢発
　　山菜を摘みながら帰る
3:00 ◎ B.C. 着

今日で新人合宿を終りである。
僕は腰痛の為3日ほど寝ていたので
雪訓等、まだ不十分な点があるが
他の一年生は効果があったと思う。
今日もクツずれがつらかった。
装備は完全にしなければとしみじみ思った。

6月3日(日)　　記入　田尻

上浦山　松下　牧野　兼岩　長谷川　植垣　加藤
河西　藤江　稼口　田尻　内田　福山　福手　笹森
伴野　猪方

5:00　エッセン起床
7:30 ○ B.C撤収　出発
9:00 ○ 新木橋　供養
10:00 ○ 徒沢からレース
12:00 ○ 全員上高地タクシーのり場着
12:30 ○ 上高地発
14:00 ○ 学校着

1年のみなさん、御苦労様!!

係の反省

ESSENの反省

今回のESSENで最っとも反省するべきところは、
来が少なかったことである。初日はまあよかったが
を1.5g/人にしたのはよく考え
また、夕食も
あるがこれも、あまりいいことではなかった。
レーションの量もいささか多かった。ここではこれでいいと
思う。冷し中華は1/人としたが1.5/人でもいいと思う。
ピラフは、野菜が切り終えないとつくれないので、
その分時間がかかるので、その辺を考えて準備しなくて
はならない。最終日は、インスタントのみそしるくらい
つけてもよかったように思う。ふりかけは今回のこもって
いったが、充分である。つけものは6コもっていったが10コ
くらいほしい。ジュースは適量であった。むぎ茶は、
15〜20あればよい(今回ジュース20、むぎ茶25もっていった)
婦人のサラダ油は今回2もとしたが3〜4もほしい。
麦粉はしらたきもってきたが適量である。カタクリ粉は
袋でよい。ワカメも1袋でよい。ラードは3つもっていったが
どうでよい。肉は50g/人としたが多り少ない。
(しかし、コストを考慮しなくてはならない)その他の分量
は計画書どおりでよいと思う。
これを参考にして、すばらしいESSENを考えてほしい

はしロ

新人合宿会計報告

収入

[illegible]

支出

食費 ¥ 104175 [illegible]

装備費 (ザック) ¥ 30795 (予備1人)

交通費 行¥20000+帰¥30000 = ¥50000

雑費 (コピー代, 酒, ジュース代, 駐車代 etc.) ¥19310

※総支出※

¥204780

計算上残高 ¥23420

実質残高 ¥22789

不明金 ¥-631

途中入下山者の食費還元分

牧野さん ¥960 × 4日 = ¥3840

小久保さん ¥960 × 6日

加藤さん ¥960 × 4日 = ¥3840

長谷川さん ¥960 × 3日 = ¥2880

植草さん ¥960 × 3日 = ¥2880

以上差しひいた

実質残高 ¥1589

→ 会本の部費

0. 11.

会計係反省

○以前言った¥1,000もの余分な不明金問題は、どうやら僕の方での計算ちがい（同一の買い物を二回数えた）模様でした。ご迷惑かけました。

○部員の皆さんに残高を報告できると思っていましたが、途中入下山者の食費負担分を払うとほとんど残らなくなってしまいました。値段の高い山行となってしまいました。　（田原）

装備の反省

ガス、メタ、ローソクはかなり残ったが沈殿ともなれば米もテント内で炊くことになりそれぞれの消費量もあがるのでこれぐらいでよいのかもしれない。ジョウゴは今回小型のものを使用したが非常に使いづらく、１年生には苦労させた。次回の合宿には大型のものを持っていくとよい。ブス修理用のレンチもいまのうちに取り寄せたい。ザイル袋は破れやすいので予備用を多めに持っていくか、丈夫なものを購入するべき。大鍋の把手は修理の必要あり。

ガス	7.5/15缶　5缶は焚火で使用	26 857cc ／泊・人
メタ	62.5/140本	11本／泊
ローソク	6.5/8 本	0.2 本／泊
電池	8本	
残置	ハーケン１本　シュリンゲ１本	

個人の反省

新人合宿の反省　　笹森 直也

新人合宿で一番反省していることは、毎日の朝の準備である。前日までまとめていても朝になると慌ててしまった。
特にエッセン当の時などは、個人の面でも集団としての面でも混乱してしまい、準備が遅れがちであった。
次に体力的な問題がある。特にキスリングでの行動の時は、足が前に出なくなり、初日、2日目には先輩にも迷惑をかけてしまった。これからは体力的にも精神的にもタフになりたい。

福山亨　反省文

新人合宿に於ける自分の反省点は、日常生活（山行前）を含めての健康管理です。体調が悪い場合自分の持っている体力は充分出せずに思い通りの行動もできません。もっとも新人合宿では苦しさに上限が無いような感じがしました。いずれにしても体力と健康管理には、常に注意をはらわなければならないと思いました。

反省文　仲野 直也

何よりも体力がたりないことを感じた。キスリングは重く、ただけでつらかったし、雪上では2年生についていくことさえできなかった。
又、てきぱき行動できず朝の集合時間に遅れたりエッセンをスムーズにこなせなかった。

反省　教養部一年　緒方龍太郎

1. 精神的なこと
がんばれる時にがんばらなかった所。
弱気になった所。
2. 体力的なこと
健康管理のまずさで靴ズレ、腰痛に苦しんだ所。
体力がなかった所。
3. 他人に迷惑をかけたこと
ノロノロ歩いて他人を待たせた所。
テントで休んでいたので、他人に用装を持たせた所。
4. 返事をハッキリとしなかったこと。
5. キビキビ動かなかったこと。(特にエッセン中)

以上、反省します。

新人合宿の反省

二年生としてもっと積極的に、TOPをやっていける体力がほしかった。1人で、終始、TOPでがんばっていくようなものを。また、雪上で一年生が隠りてくるのをもっと注意してみとかなくてはならなかった。1人でどんどん隠りてしまった。ESSELのときも、1年生をしっかりみとかなくてはならなかったのだが、ついついボーッとしていたように思う。これらの反省をもとに次の山行を望みたい　はしり

初めて、二年部員として、後輩を指導する立場となったのだが、細やかな注意、指示をする時の歯切れの悪い思い。また合宿の大半を通じての一年を引っ張るにあたっての体力のなさの自覚、総じて二年部員としての自信を、自覚を、自負をつけてないことがわかった。重大な意識の変革がとれてる。

ゴジラの背は、初めての雪渓で不安もあったが、おもしろかった。背から臨む北尾根も圧倒だった。けど細かい手順を手まどってしまうのはいけない。 (田尻)

去年登れなかった奥穂や涸沢岳にいけたのはよかったが、エッセン時や危険なところを通過するときにもっと1年生をみてやりたかった。会の推進力となる積極性の必要を痛感した。 藤江

植垣ケンタロー 反省

自分としても、全体としても緊張が足りなかったようだ。いつも緊張しっぱなしではつかれるが、山に行くときは自分からテンションを高めていかないと、油断から大変なことが起こってしまうかもしれない。

新人合宿も3回目となり、キスリングから解放されたせいか今一つ気持ちの高まりに欠けていた。3年生となり立場が変わったが、まだ自分で認識ができていなかったと思う。初心に戻って、ひたむきな山登りを目指したい。 加藤

リーダー部員としての自覚がたりなかった。1年のめんどうをみるだけでなく、パーティー全体のなかれをみることにも、気をつけねばならなかった。

Hase-don

3回目の新人合宿ということで、自分の中に慣れというものがでてきたのが一番まずかった。慣れの背後には常に事故が潜んでいるということを心得てこれから合宿にのぞみたい。 (河西)

3年生として、下級生に技術を伝えることができなかった。上級生としての自覚よりも、たるみがでてしまった。以後の山行で自分を高めると共に、自分の技術を下へ伝えていきたい。
(兼岩)

今回の合宿は事故もなく全員無事で下山できたことがなによりだった。天候にも恵まれ多くのピークに立てたのはよかったと思う。細かい注意点を挙げるときりがないのでそれは個人各々がよくわかっていることだと思うので各自よく反省して下さい。今年は一年生が少ないのでみんなで大事にしましょう。一年生諸君はめげずに頑張りましょう。(松下)

今回は途中下山と入山を繰り返してあわただしい山行でみなさんにも迷惑かけました。二年生は頑張ってくれたけど、もうすこし細心(こまごま)と注意して下さい。一年生は大変だったでしょうけど、めげずに頑張って下さい。
(牧野)

今回の合宿は2日間しか参加できなかったので合宿がどのようなものだったかは分からないが新しいメンバーで活動が始まった今年度の活動を充実したものにしていきたい。
小久保、陽介

作　文

笹森 慎也

2年前の6月の第1日曜日，僕は愛知県立刈谷高等学校の
2年生として上高地をおとずれた。
そして2年後の今年　信州大学山岳会の新入部員として
河童橋をながめながら　上高地を横切った。
1週間に渡ってすごした「穂高の地」を離れられるのは
正直いってうれしかった。
しかし この2年間という年月を経て再び訪れた。
上高地は　僕にとってまったく異質なものに感じられた。
6/3　当日は　ウェストン祭ということもあり
完全な観光地であった。
そんなゆえ　だらしなく腕をたらし　キスリングをしょっている
僕を　回りの観光客は　どのように見ていたのであろうか。
少なくとも　僕は　その中に　とけこんで　のどかな雰囲気と
一体化するということは　できていなかったろう。
かといって　観光客の僕を見る目は　あからさまな差別と
いうわけでもなかった。そう　彼・彼女達の目は　同情のまなざし
なのである。なぜだかしらないが　そうなのである。
まったく意味のない視先なのである
しかし　この視先は　本来登山基地である上高地
の観光客が　自分自身では　わられない　登山というハードさを
少し共有できた気にさしてくれる　それに対する　礼としての
視先だったのかもしれない。書いていてよくわからんように
なってきたが　2年前の楽しい雰囲気からくらべての
ギャップの大きさは　新入合宿が終わったことの
安堵感を　よりいっそう大きくしたような気がする。
それにしても　ジャージにキスリング姿を
自分がするようになるとは　夢にも思っていなかった。

福山 高　作文

松高尾根のやぶのひらけた所に出るといつの間にかボボムを見下ろしている。何数のボボムなのか。この尾根登りの時ずっと考えていたことの一つである。他に考えていた事は、今までの合宿生活の事である。やはり自分には、きつい。やめることも考えた。どうも今までやって来た所の山登りとは違う。先輩方は新歓コンパの時とは一変してとてもこわい人達になる。エッセン中もそうである。間髪いれず飛ぶ注意、とても気のぬけない時が続く。

しかし松高尾根はとても親しみやすい。木々に囲まれ、時々岩を登り、これは今までの合宿中になく、のんびり登れる感じである。上に行くと雪が出て前後の岩々が遠近感が無くなる程大きい。

奥又白池近くなると、雪の定、直上訓練が待っていた。いつもの浦山さんとは調子の違う松下さんの「ピッケルかまえ～!!」で体中にキンチョーがはしる。

直上をやっているとき、また「何故のボボムか?」ということが頭をよぎる。

作文

合宿前は合宿がとても楽しみでどんな山に登るのだろうと一人でわくわくしていた。しかし初日にはもう「どうしてこんなに重いキスリングを背負って山に行かなくてはならないのだろうか？」などと疑問をもち、苦しみながら歩いていた。途中、ひもしかやエゾを見れたのが救いだった。目的地がどこにあるのかわからずにただ歩いているのはなかなかつらいものがある。

二日目はキスリングの重さがさらにアップし僕の背負える重さの限界を超えるもののように思われた。血がとまり、手はしびれ、腰は赤くはれ体がぼろぼろになった。

しかし三日目からの山登りは初めての経験であり雪の上を歩くことのむずかしさとおもしろさを知ることができた。そして山の頂に立ったときのどう快さは忘れられない。

作文　教養部一年　緒方龍太郎

合宿は楽しくなかった。自分の情けなさを思い知ったからだ。他の一年ががんばっている中、いつも一人でへばっていた。靴ずれ、腰痛も自分の健康管理のまずさが原因だ。3日をテントで休み6峰にしか登れなかったのも残念だ。いいかげんにやっても、その時楽しいだけで、結局、何も残らない。サボれば、必ずどこかでツケが回ってくる。判っているつもりだったが、ここぞという時、逃げ出してしまう。何度も同じ経験をしたが、これほど思い知ったことは無かった。

白出しのコル＋５０００ｍ＝サウスコル　藤江

某３年生「オラァ、２年ももっととばせ。」橋口「こんな所じゃやる気になんねーよな。」オレ「白出しのコルがサウスコルだったらなぁ。」橋「奥穂がエベレストで涸沢岳がローツェか。絶対気合いはいるぜ。」オレ「でもやっぱダルいんだぜ。あと５０００ｍ上だからな。」トレース現わる。橋「おぉ神のトレースだぁ。」某３年「2年トレース外せぇ。」橋「冗談じゃねえよ、トレース行こうぜ。」オレ「やっぱまずいんじゃねえの。橋口そのまま行っていいよ。オレちょっとだけトレース外すからそれでカッコつくだろ。」橋「マジかよ。」数分後オレ「橋口もうトレースバンバン行こうぜ。死ぬぞもう。」橋「なんだよさっきと全然違うじゃねえかよ。」オレ「いいんだよ、オレはこうゆうヤツなんだよ。」数分後橋「あーあ小滝がいりゃぁなぁ。アイツ全部１人で行っちゃうんだぜ。」オレ「絶対そうだろうな。オレ達誰も追いつけないんだぜ。」オレ「オラァ１年さっさとこい、もっととばさんかぁ。」橋「来るんじゃねーよアイツラよぉ、休めねーぞ。」トレースの右を田尻が１人行く。「田尻先はまだ長いんだぜ、そんなことやってると死ぬぞ。こっち来いよ。」田尻「・・・・・・・うん。」オレ「横一列まだかなぁ。」橋「・・・・・・。」

白出しのコルはまだ遠い。

＜編集後記＞

新人合宿から、早いもので1ヶ月たとうとしている。皆さんどうおすごしだろうか。伊那は目的意識をしっかりもたないとボケまくってしまう所である。けど僕にだって免許をとると云うささやかな目標があるのさ。というワケで6月はほとんど車校通いとなったしかし現状は2段階で1時限、3段階で2時限オーバーして3段階のみ手わめにもいってない……。免許取得の道は遠い……。

（田尻）

新人合唱譜 1990
仙州大学合唱団
印刷：伊藤
発行：松本